

令和 8 年度第 1 回堺市中区政策会議 会議録

日 時：令和 8 年 8 月 6 日（木曜） 19 時 00 分から 21 時 00 分まで

場 所：堺市 中区役所 4 階 大会議室

出席者：【構成員】（敬称略）伊藤久美子、今西千晶、今村憲一、太田佳世、金澤正巳、
木本隆夫、竹井進、田重田勝一郎、巽真理子、谷村修、松居勇、
森田裕之、鷺見直子、足立悠真、狩野史門、小西響、西條陽菜、
佐藤由夏、武内柚葉、山崎桜愛
（以上 20 人出席）

【事務局】伊藤修士（中区长）、山田美佐（副区长）、名越賢治（部理事（深井駅
周辺地域活性化推進担当）兼深井駅周辺地域活性化推進室長）、蘆田哲
弥（中保健福祉総合センター所長）、長谷英俊（自治推進課長）、大野か
おり（市民課長）、中崎皓之（保険年金課長）、藤本英伸（生活援護課
長）、赤松邦彦（地域福祉課長）、山本深悟（子育て支援課長）、古谷
禎人（中保健センター所次長）、北村淳子（企画総務課長）、重谷憲治
（企画総務課長補佐）、大橋直季（企画総務課企画係長）、具足愛（企
画総務課副主査）、水内舜（企画総務課職員）

1 開会

○司会

ただいまから令和 8 年度第 1 回堺市中区政策会議を開催いたします。

私は本日の司会を務めます、中区役所企画総務課の大橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

中区政策会議につきましては、区民の行政への参画と区長の政策立案を支える仕組みとして令和 3 年度に設置いたしました。本会議は構成員の皆様と地域の実情や課題を共有し、地域性と専門性の視点により、情報交換や議論を行う場となっています。中区政策会議は、昨年 7 月 1 日から第 3 期が始まり、本日の会議は第 3 期としては 2 回目となります。

それでは次第に従いまして、順に進めます。まず、開会に当たりまして中区长の伊藤よりご挨拶申し上げます。

2 中区长挨拶

○中区长

皆様、こんばんは。中区长の伊藤です。本日はお忙しい中、令和 8 年度第 1 回堺市中区政策会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様におかれましては、平素より中区の区政運営につきましてご理解ご協力いただいておりますこと、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

本日の会議につきましては、令和 7 年度市民意識調査等の結果が確定したことを踏まえまして、「前計画の総括について」と新計画において区政運営の方向性として位置づけている「広報力の強化について」を議題としています。特に「広報力の強化」につきましては、各取組を進めるに当たりまして、すべての分野に共通する重要なテーマであると認識しておりますので、構成員の皆様からは多角的な視点からご意見ご提案をいただきたいと考えております。

限られた時間ではございますが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○司会

それでは、ここからの会議進行については、まず私の方から議題の設定理由、配付資料についてそれぞれ説明させていただき、その後、森田座長に進行をお願いします。

それではまず、今回の議題の設定理由についてご説明いたします。

今回の議題は「前計画（堺市中区地域計画）の総括について」と、「堺市中区地域計画 2026→2030 における「広報力の強化」について」です。

まず、前計画の総括について、ご説明いたします。前計画の堺市中区地域計画については、計画期間を令和 3 年度から令和 7 年度までとし、令和 3 年 3 月に策定しました。その後、同計画に基づき、中区のめざす将来像の実現に向け、各取組を進めてまいりました。中区政策会議においては、これまで令和 6 年度第 2 回会議、令和 7 年度第 1 回会議において、構成員の皆様から様々なご意見をいただき、前計画の振り返り及び評価を行ってまいりました。それらの評価等を踏まえまして、新たな区政運営の方針となる「堺市中区地域計画 2026→2030」を令和 8 年 3 月に策定いたしました。

昨年度に実施しました前計画の評価時点においては、前計画の最終年度である令和 7 年度の市民意識調査等の結果が確定していませんでしたが、この度、令和 7 年度の数値が確定したことを踏まえ、総括としてご報告を行うため、今回の議題といたしました。

続きまして、「広報力の強化について」の議題の設定理由についてご説明いたします。「広報力の強化」については、先ほどお示した「堺市中区地域計画 2026→2030」において、区政運営の方向性の 1 つとして位置づけております。「堺市中区地域計画 2026→2030」においては、子育て、福祉、安全、環境、歴史文化、健康、交流といった様々な分野で取組を進めますが、「情報発信」はすべての分野に関わる重要なテーマであり、情報を受け取る方に応じた情報発信を適時適切に行うことで、より効果的に取組を推進していきたいと考えております。

以上のことから、「広報力の強化」に関しまして、皆様からご意見をいただきたいと考え、今回の議題といたしました。

次に、配付資料のご案内を申し上げます。

まず、「（資料 1）前計画（堺市中区地域計画）の総括について」でございますので、資料 1 をご覧願います。

資料 1 の 1 ページから 2 ページまでは概要を、3 ページには総括の考え方を記載しております。

なお、3 ページの総括の考え方、3 つ目の丸の箇所に記載がございましたが、「堺市中区地域計画 2026→2030」計画冊子の 6 ページから 10 ページまでに「前計画の評価」を記載しております。基本的

にはそれらの記載内容をベースとした上で、令和 7 年度の市民意識調査等の確定値を受け、評価の方向性に変化があったかどうかに着目し、総括を行っております。

続きまして、資料 1 の 4 ページから 6 ページまでにおいては前計画の KPI 達成状況を、7 ページから 8 ページまでにおいては総括を記載しております。

KPI の達成状況としましては、6 ページに記載のとおり、11 の KPI 中、目標値を達成したものは 5 つでございました。この結果については、令和 6 年度から令和 7 年度の数値に向上や減少が見られた項目があったものの、計画冊子の 10 ページに記載しております、令和 6 年度（2024 年度）時点の現状値の KPI の達成状況と同様のものでございました。

なお、KPI の数値について、目標値と 10 ポイント以上の開きがあった子育てと安全に関する KPI の補足説明をいたします。資料 6 をご覧ください。

まず、子育てに関する KPI ですが、令和 7 年度市民意識調査の結果では、52.4%と目標値の 63.0%までには 10 ポイント以上の開きがありました。市民意識調査の内訳を確認しますと、「小学校入学前のこどもがいる世帯の回答者」と「小・中学校のこどもがいる世帯の回答者」の数値においては、いずれも 63%以上の数値が確認できており、子育て家庭の当事者に対しては中区が子育てしやすい都市として一定認識いただいていることが伺えます。

一方、それらの方以外の内訳を確認しますと、目標値とは 10 ポイント以上の開きがあったことから、現在子育て家庭ではない方には中区の子育て支援の取組が知られていないことが推察されます。そして、このことが子育てに関する KPI が目標値に達しなかった要因として考えられます。

新計画においては、今後、区が行う事業の実施に加え、情報を必要としている方への適時適切な発信や、現在子育て家庭ではない方へも広く知っていただく情報発信を推進し、KPI の達成をめざして取り組みます。

次に、安全に関する KPI のうち、防犯に係る KPI についてです。こちらの KPI についても、令和 7 年度市民意識調査の結果では、44.7%と目標値の 58.3%までには 10 ポイント以上の開きがございました。

市民意識調査の内訳を確認しますと、年代別の割合からは 70 歳代以上を除いては、どの年代においても数値の減少が確認されました。KPI に記載の「治安に関する不安」については、警察や行政、地域による取組状況に加え、犯罪情勢も影響を及ぼす要因の一つとして考えられます。近年では、特殊詐欺や車上狙いといった生活に身近な犯罪が増加しており、こうした傾向が区民に「治安が悪化している」との印象を与えていると考えられます。

新計画においては、今後、警察等との連携を一層強化し、犯罪が起りにくい安全で安心な地域社会の実現に向けた取組を推進し、KPI の達成をめざして取り組みます。

そうした結果を踏まえまして、総括としましては、「堺市中区地域計画 2026→2030」策定時における「前計画の評価」の内容から、基本的な考え方について変更はないものと認識しております。

なお、各分野別要素における取組については、「前計画の評価」においても記載していますが、これまでの取組の一層の推進に加え、適時適切な情報発信を行うことが KPI の達成に向けて重要であると考えております。

今後、計画に掲げる中区のめざす将来像「～みんなが安心を感じ、魅力をつなぎ、活力を生む～ 成

長の歩みを止めない中区」の実現に向け、着実に取組を進めます。

次に、配付資料のうち、「（資料 2）堺市中区地域計画 2026→2030 における「広報力の強化」について」をご覧ください。

資料 2 でございますが、1 ページから 2 ページまでは概要を記載しております。前計画の総括からも、「情報発信」は中区として取り組むべき重要なテーマと捉えており、計画においても区政運営の方向性として「広報力の強化」を位置づけています。「広報力の強化」とは、「区役所の情報発信力」と「中区に暮らす人たちの情報受信力」の双方向からの広報力を強化することを意味しています。

次に、3 ページから 9 ページまでは区役所の「情報発信力」に関する取組内容を、10 ページから 11 ページまでは中区に暮らす人たちの「情報受信力」に関する取組内容を記載しています。

また、12 ページから 15 ページまでは、区民アンケートから見る中区の現状として、昨年 6 月に実施しました中区区民アンケートの結果を一部お示ししております。

最後 16 ページ、17 ページには意見・提案内容として、ご意見をいただきたい内容を記載しております。区役所がイベント情報、防災に関する情報、区役所の事業や手続き、その他区政情報を発信する場合、特にどのようなコンテンツについて、どのようなツールを利用して情報発信していくことが効果的か、情報発信と情報受信の観点を踏まえ、ご意見やご提案を頂戴したいと考えております。

なお、「（資料 4）構成員からの事前意見まとめ」、「（資料 5）令和 8 年度第 1 回堺市中区政策会議学生部会（報告）」については、構成員皆様及び学生構成員からいただきました事前の意見をまとめた資料となります。この後の意見交換の際の参考資料としてご覧ください。

議題の設定理由、配付資料の説明については以上でございます。

それでは森田座長、会議の進行をよろしくお願いいたします。

3 議事

○森田座長

それでは、次第に沿って議事を進めます。

まずは次第 3 の議事のうち、「前計画の総括について」でございます。

ただいま事務局から議題の設定理由及び資料の内容について説明がありました。

本議題については、事務局からの報告事項でありましたが、ご意見等がある場合はご発言をお願いします。

少し補足しますと、資料 1 のうち、4 ページと 5 ページの「前計画の KPI 達成状況について」は、未達成の KPI もありますが、数パーセントの揺らぎは統計の誤差の範囲内の可能性があると言えます。しかし、子育ての「堺市は子育てがしやすいまちだと思いますか。」と安全の「堺市は治安に関する不安が少ないまちだと思いますか。」については、KPI との差が 10 ポイント以上開いているため、少し注視する必要があります。

KPI の値は全体の平均と、その回答者の構成属性における違いがあるかどうかを確認するため、資料 6 を補足資料として作成いただきました。これは一例で、本来であればほかの属性の偏りを見る必要があるかもしれませんが、まずは子育てについて言いますと、やはり回答者が子育て世代かどうかは

非常に影響が大きいと思いますので、資料 6 の 1 ページのとおり、回答者をライフサイクル別に分けて示していただきました。ご注意いただきたい点は、例えば令和元年と令和 7 年に同じ人が市民意識調査に回答していた場合、令和元年の回答時に中学一年生のお子さんを持つ回答者は、6 年後の令和 7 年の回答時にはお子さんが「教育期（小・中学生のいる世帯の回答者）」ではない年齢になるので、6 年間で回答のずれが生じます。そういった状況も踏まえてこの数字を見ていただかないといけません。

先ほど事務局からご説明いただきましたように、子育て世帯の数値は比較的高く、子育て世帯ではない方の数値は少し低くなり、それらを平均すると 52.4%になり、目標値には達していないという状況です。子育て世帯ではない方の数値が低いのは問題ないということではなく、計画策定時の KPI は全体の平均値が 63%になることを目標として考えておりましたので、この内訳を考えつつ、どうすべきなのかをご意見があればいただきたいと思います。

例えば、育児期や教育期ではない方の数値は比較的低くなっており、これは関与度も関心度も低いという可能性が考えられます。

また、育児期と教育期を比較した際、誤差の範囲内かもしれませんが、教育期は前計画策定時では 72.5%であったところ、今回は 67.4%で約 5 ポイント落ちています。以前は小学校に入る前のお子さんがある時に回答されていた方が、お子さんが教育期になって回答をされて、辛口の意見に変わったことも考えられます。そういうことも踏まえつつ、子育てについてご意見があれば伺いたいと思います。

もう一つは安全ですが、KPI のうち「堺市は治安に関する不安が少ないまちだと思いますか。」は、一番達成度が低い KPI で、目標値から 10 ポイント以上の開きがあります。こちらも様々な属性で分けて見るべきだとは思いますが、資料 6 では年代別の分類で作成いただきました。

例えば、70 歳代以上の数値は令和元年と比べて上がっていますが、前計画策定時から 6 年間のタイムラグがございますので、以前 60 歳代として回答していた方が 70 歳代として回答しているケースもあります。そういうことを踏まえて見ても、60 歳代よりも下の世代は軒並み結果が悪化しています。統計的な誤差の範囲内にはあるかもしれませんが、基本的には少し低くなっており、これについて何かお気づきの点がございましたら、ご意見いただければと思います。

それでは、ご意見いかがでしょうか。はい、巽構成員お願いします。

○巽構成員

子育ての KPI の 10 ポイントの差については事前意見シートにも書かせていただきましたが、資料 6 で育児期や教育期の数値が高かったという結果を見て、安心しました。私個人としては、子育て中の人たちが子育てしやすいと思っているのであれば十分だと思いました。私自身も、子育て中はこどもに合わせた子育て支援の情報にアンテナを張っていましたが、こどもが大きくなるとアンテナの感度が低くなってしまって、自分から情報を受信しなくなりました。中区が子育て支援に関する取組をしているという情報発信は、広報として発信していけば良いと思いますが、育児期や教育期の子育て世帯の方と同じようにこどもがいない方にも情報を届けようというのは、受信側の問題として難しいかもしれません。

○森田座長

ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。はい、田重田構成員どうぞ。

○**田重田構成員**

「堺市は子育てしやすいまちだと思いますか。」で「そう思わない」と回答した人の理由は分からないのでしょうか。それを分析しないと、数字だけ見ても分からないというのが一つと、あと事前意見シートにも書かせていただきましたが、子育ての KPI が改善傾向にありながら未達成なのは、本当に必要な家庭に情報が届いていないところが一定あるのかなと感じたところです。

私も異構成員の意見と同じで、子育て世帯の方が子育てしやすいと思っているのであれば、それで良いと思いました。やはり自分のこどもが大きくなるにつれて、子育て情報を受け取るアンテナはどうしても下がると思います。

○**森田座長**

ありがとうございます。確かにおっしゃるとおり、子育てに関与している世帯の値が高いということは重要だと思います。しかし、計画策定時には、子育て世帯とそうではない方に分けた KPI の設定をしていませんので、全体の平均を見ることとなります。今後の課題だとは思いますが、例えば、子育て世帯の値に関して目標値を設定するのも一つの考え方ですし、逆に言うと、子育て世帯だけが子育てしやすい都市だと思えば良いのかという考え方も一方ではあるかもしれません。要は、うちは関係ないからということで、全く関心を持たなくなるのは本当に良いのかと言われると、それはそうではないかもしれません。このため、やはり全体として見ていくべきだという考え方もあるでしょうし、逆に、そもそもの関心の持ち方が違うから子育て世帯とそうではない方では値を分けるべきという考え方もあるかもしれませんので、その辺りは次に検討すべき課題かと思います。

次に、安全の KPI「堺市は治安に対する不安が少ないまちだと思いますか。」について意見を伺ってみたいと思います。こちらは人によって治安に対する不安の感じ方が違うため、難しいところです。例えば、お子さんがいる家庭だったら、自分のこどもが誘拐されるのではないかと不安に思っているかもしれませんし、そうではない方はまた違う不安を感じているかもしれません。安全に関して、何かご意見ある方はいらっしゃいますか。それでは、田重田構成員お願いします。

○**田重田構成員**

実際に犯罪の件数が増加しているなど、事実ベースとして中区の治安が悪くなっているのか現状を知りたいです。若い世代ほど治安が悪いと感じているのは、世の中に不安が高まっているような時代背景的なものがあるような気がします。その辺りはいかがでしょうか。

○**森田座長**

犯罪の件数については何か数値があったかと思いますが、これについて事務局から回答いただけますでしょうか。

○**事務局**

田重田構成員からご質問のありました事実ベースの件数で申し上げますと、大阪重点犯罪（性犯罪、

特殊詐欺、自動車関連犯罪）認知件数においては、令和 7 年度は令和 6 年度よりも件数が増加しています。このことは、70 歳代以上を除いた全世代で「堺市は治安に対する不安が少ないまちだと思いますか。」の数値が低くなった要因の一つと考えております。

○田重田構成員

ありがとうございます。若い世代は、SNS をよく見ているので、トクリュウの犯罪や、闇バイトの問題に関する情報に敏感だと思います。悪い情報が入ってくる確率が高くなることで、自分のまちに関係なくても治安が悪いと思ってしまっている可能性があるのではないかと思います。

○森田座長

ありがとうございます。引き続きその辺りは注視していく必要があるかと思います。

前計画の総括について、ほかにご意見などございますでしょうか。

ご意見ないようでしたら、次に、「広報力の強化」についてのご意見をお伺いしたいと思います。

本議題については、構成員の皆様からご意見を伺う前に、まずは、先日開催された学生部会について事務局より概要を説明いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○事務局

中区では、学生構成員の皆様の会議案件への理解を深め、会議当日の意見提出の助けとするために、学生構成員だけで先行して意見交換を行う学生部会を開催しております。

今回も、学生部会を実施いたしまして、事務局から資料についての説明を行った後、学生構成員との質疑応答や意見交換を行いました。

学生部会についての説明は以上となります。

○森田座長

ありがとうございます。それでは次に、学生部会に参加いただいた学生構成員の一人である佐藤構成員に意見交換した内容について報告していただきます。佐藤構成員、お願いします。

○佐藤構成員

先日開催されました学生部会において、参加した学生で話し合った内容について報告させていただきます。「（資料 5）令和 8 年度第 1 回堺市中区政策会議学生部会（報告）」をお手元にご用意ください。

「広報力の強化」に関する質問項目ですが、資料 5 に記載のとおり、①のイベント情報から④のその他まで、それぞれに関して意見が出ました。

まず「①イベント情報」についてですが、イベントに参加される方でも、子育てをしている方と高齢者の方では情報発信の手法が変わると思いますので、こども向けや子育て関係のイベントはホームページや SNS で情報を発信し、福祉や健康などの高齢者向けのイベントは紙媒体の広報紙やチラシに掲載するなど、対象者によって発信媒体を変えることが効果的だと思うという意見がありました。また、普段からインターネ

ットで「イベント情報」と検索して、イベント一覧から参加したいイベントを探すことが多いので、区役所で実施予定のすべてのイベントが一覧で見られるページがあると良いとの意見もありました。

次に、「②防災に関する情報」についてですが、防災に関する情報は、停電時などいざという時にパッと手で見られるように、紙媒体で発信する方が良いという意見がありました。

次に、「③区役所の事業や手続き、その他区政情報」についてです。大阪公立大学になってから大学のアプリができて、休講情報や学校でのイベントのことなど、情報が一つのツールに集約されて、アプリを見れば大学の情報が分かるようになり便利であるという意見や、アプリ内にチャットボットもあり、知りたいことをすぐに簡単に調べることができるようになったという意見がありました。これらを踏まえ、区役所においても、ホームページを見ればすべての情報が得られるようにすることや、チャットボットを導入すると良いという意見もありました。

最後、「④その他」については、中区長 X と広報紙についての意見が出ました。中区長 X については、中区長 X の投稿を初めて見ましたが、発信内容が少し堅い印象を受けたという意見がありました。このため、例えば、区長の今日のお昼ご飯やお勧めスポットの紹介など、もう少し親近感が湧く発信があると、ほかの発信も見ようと思うきっかけになるのではないかという意見がありました。

広報紙については、情報量が多く、自分に関係のある情報がどこにあるのかすべてに目を通さないと分からないため、〇〇が好き、嫌いで矢印を進んでいけば必要な情報にたどり着くなど、紙面の作り方を工夫することや、若い世代は情報を自分で探す力があるので、調べた先の情報の充実を図るべきだと思いう意見がありました。広報紙にはどこから探していけば良いかをリードするような情報を掲載すると良いという意見や、高齢者には伝わりやすい情報、若い世代にはキャッチしやすい情報を発信することが効果的だと思いう意見もありました。

学生部会の報告は以上となります。

○森田座長

報告ありがとうございました。さて、構成員の皆様から事前たくさんのご提案やご意見をいただいております。その内容を事務局で資料 4 にまとめていただきました。

また、学生部会につきましても、ただいま報告がありましたように様々なご提案やご意見を出していただいております。それらの内容をご覧いただき、ご意見などございましたらご発言をお願いしたいと思います。その前に少しだけ補足いたします。今回皆様にご意見いただくに際して、漠然と質問しても人によって想定しているものが違った場合、意見が拡散してしまい議論が成り立たないと思われましたので、焦点を絞って、①イベント情報、②防災に関する情報、③区役所の事業や手続き、その他区政情報、④その他という分類にして、何をどのように広報すべきなのかということについてご意見を伺いました。

その元となっているアンケート調査の結果が 12 ページの調査ですが、どのようにそれぞれの人が情報を入手しているのかということも 13 ページでは自治会の加入状況別に分類していただきました。当然のことながら加入されている方は町内会・自治会の回覧板等のメディアからの情報の入手経路が多く、その一方で、ホームページからが少ない状況です。これは年齢構成の問題もあるかもしれませんが、逆に回覧板等が充実しているからということも考えられるかもしれません。それ以外についてはあまり変わらないという状況になっております。

それから、15 ページを見ていただきたいのですが、先ほど学生構成員から、大阪公立大学の情報入手経路の話がございましたが、学生の皆さんは学生生活を送るに際して必要なことが非常に多いので確かにそうだと分かるのですが、区民の皆様がどのような情報を知りたいのかと言いますと、どの回答を見ても半分には達していません。これは別に悲観視することではなくて当然のことですし、むしろ全く関心のない方はどの情報もいらないという中で、能動的に情報を集めに行こうと思っている方の割合がこのような状況であるということでした。

もう一つは 14 ページで年齢別に分けていただいた情報の入手先についてですが、基本的には紙媒体と考えられる広報紙とか回覧板などが非常に多い状況です。一方で、ホームページは年齢別で多少の差があるもののほぼ一緒であり、それが大体 20%から 25%ぐらいで、SNS はほとんど使われていないというのが現状です。これも別に悲観視することではないので、SNS は SNS で良いところがあるわけですが、区役所としての情報をここで 100%実現しないといけないというわけではないと思いますし、逆にその SNS の良さを活用したコンテンツの拡散の仕方があるのだらうと思います。現状はこういう数字であるということを踏まえた上で、何をどのように発信していくかについて、これからご意見を伺ってきたいと思います。

コンテンツを少し分けてご意見をお伺いしていく方が良いのかなと思いますので、まずは「②防災に関する情報」からご意見をお聞きたいと思います。

それでは、今西構成員いかがでしょうか。

○今西構成員

防災に関する情報については、7 月 28 日に熊本地震が発生したこともあり、関心はすごく高まっていると思います。ただ、ニュースなどで話題になっていても、そのことにすら関心を抱く余裕のない方や理解することが難しい方たちは一定数いらっしゃると思いますので、そういう環境にある方を防災にどう導いていくかということが必要だと感じています。

例えば、高齢者に向けては、紙媒体で発信することも必要だと思います。最近は、スマホを持っている高齢者も増えているので、紙媒体と電子どちらでも見られるとより良いと思います。一方で、若い世代は普段から TikTok をよく見ると聞いたので、TikTok を使った発信ができればより効果的だと思います。

○森田座長

ありがとうございます。それではほかの方はいかがでしょうか。はい、田重田構成員どうぞ。

○田重田構成員

防災に関して、最近は「フェーズフリー」という言葉がよく使われています。災害が起こるまでは全く無関心で何も無い時に防災の情報を調べることはほぼないと思いますので、普段使っているアプリなどよく見る情報媒体に防災に関する情報がプッシュされてくることは、防災の情報に触れるためには必要なことだと思います。

昔、自治体のホームページの仕事をしていた時に感じたことですが、選挙や地震時は、自治体のホームページはサーバーがダウンするぐらいアクセスが集中していましたが、それ以外の時は自治体のホームページを調べる人はほぼいませんでした。有事の際には自治体のホームページにすぐ関連情報を掲載するという

ことと、そうではない時は普段から使うアプリに知っておくべき情報を発信することが大切だと思います。事前意見シートでは、子育て世代がよく使うアプリ「region PAY」での情報発信を提案しました。

○森田座長

はい、ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。

○狩野構成員

防災に関しては、田重田構成員の意見にもありましたが、情報の受け手が能動的に調べなくても、自動的に届くような情報発信が必要だと思います。具体的には、メールマガジンを通じて定期的に情報発信することが効果的だと思います。緊急時になる前からあらかじめ知っておくべき防災情報に関しては、情報の受け手が定期的に情報を受け取れるようなメールマガジンでの発信が有効だと思います。

○森田座長

はい、ありがとうございます。ほかにご意見ある方はいらっしゃいますか。

では、小西構成員お願いします。

○小西構成員

やはり行政からの情報発信は信頼度が高いと思います。防災に関する情報は、流動性が高く、即時的に情報発信できる媒体が優れていると思います。

多くの情報は日本語で発信されているため、日本人は情報を取得しやすく、情報の精査もできますと思いますが、外国人や視覚や聴覚に障害がある方などは、受信できる情報に偏りがあるかと思います。そういった方に向けて、多言語対応や、音声や字幕付きの動画での情報発信があると良いと感じています。

○森田座長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

では、伊藤構成員お願いします。

○伊藤構成員

「②防災に関する情報」に限らず、一方的に SNS やホームページで情報を発信するのは良いですが、60 歳代、70 歳代のシニアの方が日ごろから情報の発信や受け取り方を練習する仕掛けづくりが必要かと思います。スマホ教室なども実施されていると思いますが、普段から情報を入力したり受け取ったりする練習をすることができるツールを作ることで、皆さんから「ここでこんなことがあったよ」とか、「こういう人を見かけたよ」とか、そういった情報も入手できますし、もう少し関心度が高まるのではないかと思います。

○森田座長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

それでは、竹井構成員いかがでしょうか。

○竹井構成員

私は阪神・淡路大震災を経験しました。やはり大震災を経験した人と経験していない人とは防災意識の高さに差があるように思います。いざという時のために防災ネットの登録や、防災資格者や実際に被災した方の講演を聞き、経験していない方も防災意識を持つことがすごく大切だと思います。

○森田座長

はい、ありがとうございます。

皆様のご意見を伺っていて感じることは、「②防災に関する情報」については、平時か非常時かという区別をつけた発信が大切だということです。平時は紙媒体で情報発信することが可能ですが、非常時や緊急時に紙媒体を配るわけにはいきません。そのため、緊急時や非常時には、ホームページで対応するのか、発信する SNS を決めておいて対応するのかを整理する必要があります。SNS で対応するのであれば、受信側が事前に登録していないといくら発信しても情報が届きません。整理すべき点としては、緊急時にどのように対応するのかを考える必要があるという点と、外国人等様々な状況の方に情報が行き渡る方法を検討しないといけないという点かと思います。

「②防災に関する情報」についてほかに意見はございますか。なければ、「③区役所の事業や手続き、その他区政情報」についてご意見を伺いたいと思います。

では、太田構成員いかがでしょうか。

○太田構成員

区役所の事業について、事前意見シートにも書かせていただきましたが、子育て世代は第 1 子のときと第 2 子、3 子のときでは情報の受け取り方が変わってきます。

第 1 子の子育ては、初めてのことが多く不安が大きいのので、保健師さんや子育て支援課など行政からもらった資料やチラシなど紙媒体を見ることが多い気がします。スマホを持っていても、子育てに関して知っておくべき情報が分からないので調べようがなく、行政からの資料が手元があれば、片手間に見ることができするため、デジタルより紙の方が効果的だと思います。

しかし、第 2 子、3 子などの子育てでは、子育てに少し慣れていることもあり、気になることがあっても自分で調べた方が早いと感ずるため、チラシなどの紙はあまり見なくなる傾向にあると思います。

また、子育てひろばでは、こども園の申込みやこどもの歯のことなどの質問をよく受けます。若い人は特に二次元コードで読み取ることが得意だと思いますので、子育て世代の人がよく行くような場所に子育て情報が分かる二次元コードのついたチラシなどを置くことは効果的だと思います。

○森田座長

ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。

山崎構成員お願いします。

○山崎構成員

事前意見シートにも書かせていただきましたが、子育てとか福祉に関する手続きなどの情報について、必要としている人がその情報にたどり着けていない、つながることができていないと思いました。

これは情報を受信する側に探す力がない場合もあると思います。そういう人たちが情報を受け取ることができる、つながることができるようにする仕組みとして、ホームページにチャットボットを設置することや、広報紙にフローチャート形式で、こどもが「いる/いない」、いる場合は「〇歳以上/以下」として当てはまる方に進んでいくと該当する情報にたどり着くことができるというような工夫も良いかと思います。

○森田座長

ありがとうございます。

チャットボットは確かに最近よく活用されていますし、有効なツールである可能性は否定しませんが、ただ、行政の場合は、チャットボットが回答したことについて、全て責任を取るのかと言われると難しい面もあるように思います。

個人的な意見として、行政のホームページはどこも似たような感じだと思いますが、本当に情報を入手したい人が見やすいような作りになっているだろうかという点で、ホームページの作り方にやや問題があるように思います。中区のホームページをどのくらいの人が閲覧していて、その人たちがトップページからどういう情報をどのようにして入手しているのか、どういうページの遷移をしているのかということについて、ログを見て分析することも有効だと思います。

ほかにご意見ございますか。異構成員お願いします。

○異構成員

区役所の手続きについては、自分に必要な手続きがはっきり分かっている場合は窓口を探せますが、そもそもどういう手続きを取るべきなのか分からない段階では窓口を探すのが難しいと思います。そういう方でも区役所に来庁しやすいように、ホームページなどに「〇〇で声をかけてもらえば窓口をご案内できますので安心して来てください」などの掲載があると少しは安心して来てもらえるかと思います。

来庁者に全ての手続きの項目の中から該当の項目を選んでもらうのは難しいかと思うので、総合窓口的な案内があれば良いなと思いました。ほかの市役所では総合窓口の設置などありますが、中区役所はそういった案内はありますか。

○森田座長

その点については、事務局から現状を説明していただけますか。

○事務局

総合窓口という点では、区役所 1 階にフロアマネージャーを設置しておりますので、どこに行ったらいいかわからないという方には窓口をご案内しています。

なお、ホームページ上では、フロアマネージャーの設置について掲載しているページはありますが、中区ホームページのトップページ等において一見して分かりやすいような掲載には現状なっていません。

○森田座長

ありがとうございました。ほかにご意見のある方はいらっしゃいますか。はい、太田構成員どうぞ。

○太田構成員

先ほどのフロアマネージャーのことに関して質問です。フロアマネージャーは、中区役所 1 階の正面入口側のエレベーター横にいらっしゃる方のことですか。

○事務局

おっしゃるとおりです。

○太田構成員

分かりました。ありがとうございます。

○森田座長

ほかにご意見等なければ、次のコンテンツ「①イベント情報」に進みます。

イベント情報は幅広いのでイベントによって意見が違ってもかもしれませんが、どういうイベントについて、どのように発信すると効果的かご意見をいただきたいと思います。

では、武内構成員、いかがでしょうか。

○武内構成員

イベントの内容によって届けたい年齢層が全然違うと思いますので、その年齢層に合わせて広報媒体を使い分ける必要があると感じています。スマホなどインターネットをよく使える年齢層に対しては、SNS やオンラインの方が多く情報を届けられることができると思いますし、あまり慣れていない高齢者の方などであれば広報紙のように紙で配付する媒体も必要だと思います。

あと、区役所に来てもらったら多くの情報が得られるという印象がありますので、最初のきっかけを作ることが一番大事なかなと思っています。最初の掴みをどうするかというのは、具体的な提案はできないのですが、ここに来てもらったら連鎖的に次の情報が得られるという仕組みを考えることが大切だと思います。

○森田座長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

○足立構成員

紙媒体と SNS などの媒体との併用で、それぞれに適した方向で情報発信するのが良いと思いました。特に SNS での情報発信については、区長 X など一つのアカウントからの情報発信では限界があると思いますので、例えば、イベント情報を発信してくれた方には何かプレゼントや報酬を作ったりして、どんどん発信内容をつないでいったら、多くの方に情報が共有できるのではないかと思います。

○森田座長

ありがとうございます。それでは、続きまして金澤構成員、いかがでしょうか。

○金澤構成員

熊本地震がありました。中区でも地震に対しては備えが大切だと思います。いつ起こるか予測がつかない状況の中で、実際に発災した場合、地域の人で本当に助け合いができるのかなと思います。去年の11月の地域での防災訓練では、自治会員に加え、会員以外の方にも周知するため中学校や小学校にもイベントチラシを配付しました。当日は雨による天候の影響もありましたが、多くの参加者が来られました。

自治会員を増やすためにどういう風にしたら良いかに答えはないと思いますが、生活環境の変化など様々な事情があるのでなかなか自治会加入につながらない実情もあります。自治会では地域での色々なイベントがありますし、自治会に入ってくれた方がメリットはあると思います。私も小学校の同級生と定期的に集まる場を作っていますが、色々な話をして情報交換ができます。自治会のメリットとしては、人と人とのつながりができるということが一番大事じゃないかなと思います。そういった面では、結果的に自治会活動が促進されることで、地域の安全にも繋がっていくのではないかなという風に思います。

○森田座長

自治会に加入すると回覧板などで情報を得られますので、情報発信においては有効なことであり、おっしゃるとおりだなと思います。木本構成員からも紙媒体でのイベント周知のご意見があったかと思いますが、いかがでしょうか。

○木本構成員

情報発信について、自治会を通した取組としてはチラシによる周知が中心になります。しかしながら、加入率が低く、配付率も低くなる状況がありますので、いかに多くの人にチラシを配付できるか、その方法を考えるのが一番大事だと思います。

私の場合は、自治会に入っていない方に対しても情報を周知する方法はないかと考えまして、自治会に入っていない世代が多いだろうということを想定して、小学校とも連携しながら、学校を通じてイベントなどのチラシを配付しています。結果、開催するイベントでは、参加される方のうち、小学生を含めた世帯の方が多く参加されており、チラシ配付の効果はあったのではないかなと思っています。

○森田座長

ありがとうございます。紙媒体についても、単に自治会加入者に周知するだけに限らず、必要に応じて学校との連携や、ほかの地域と連携するとか、どのコンテンツにどのツールを使ってということを考えて活用することが重要なのかなと思います。ほかいかがでしょうか、では、鷺見構成員いかがですか。

○鷺見構成員

先ほど金澤構成員のお話を伺って思いましたが、現在、人口に対して65歳以上の方が約4人に1

人の割合で、そのうちの約 3 人に 1 人が 1 人暮らしの方とのことです。そのため、ご家族や一緒に暮らしている方がいらっしゃる方にとっては、ご家族との会話がなく、また、ご近所の方との交流もなければ情報そのものが入ってこないという状況もやはり多くなってきているのではないかと思います。実際、何かイベントや小さな集まりでもあったとすれば、そういうところに出掛けていくと情報を入手できているというのを実感させられています。そういう点では、なかなか外に出るきっかけがないという現状は、一つの大きな課題かなと思っています。

あと、私は深井東町の地域ですけれども、地域の掲示板もかつてはたくさんあったかと思いますが、現在では半分以上になっているように見受けられます。何か地域でお知らせしたいと思っても掲示板が少ないので、その掲示板を増やしていただくということも大切なと思います。

また、余談ですが、私は自治会の役員もやっておりますが、ちょうど数日前に 20 歳代の男の子が自治会に入りたいと言ってきてくれました。その際、きっかけを聞いてみたら、地震もあったところであり、自治会では回覧板が回ってくるので、そこで防災の情報を知りたいと、とりあえず自治会に入るのが一番良いかなと言って自治会に入ってくれた子がいました。そういう人が少しずつ増えていったら良いなと思っているところです。

○森田座長

ありがとうございます。では、ほかはいかがでしょうか。

○今西構成員

紙媒体での情報発信は基本的には広報紙での周知が効果的だと感じました。

その上で、紙媒体で何か情報を周知する際ですが、保健センターでは健診のお知らせを配付していると思いますので、そこにチラシなど周知すべき情報を入れることができるのではと思いました。

○森田座長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

○佐藤構成員

イベント情報に関して、資料 13 ページの「中区に関する情報をどこから入手していますか」では、自治会加入別に割合を表していますが、すべての分類で「広報さかい中区版（中区広報みどり）」を選んだ方が非常に多かったという結果でしたので、広報紙を利用してイベント情報を発信するのは、すごく効果的だと感じています。

また、事前意見シートにも書かせていただきましたが、地域のイベントに参加するのは、子育て世代と高齢者世代が特に多いと思います。子育て世代の方は夏祭りやイベント、こどもの交流や体験会など、遊びといったことが目的になっている方が多いと思います。高齢者世代の場合は、情報を集めることや、スマホ講座に参加されたり、防災に関する情報を得たり、それぞれの目的があって参加されているかと思います。このため、そのイベントに参加することによって得られるメリットや、「こういう情報が得られるよ」、「こういう交流ができるよ」ということをしっかり発信していくことが大切だと思います。

また、イベントにおいては、参加しやすいと感じる方とあまり参加されない方というのがいらっしゃるかと思いますので、普段なかなか参加されない方をどのようにして参加に導いていくかというのがすごく大切だと思います。そこで私が具体的に考えたのは、広報さかい中区版（中区広報みどり）において、例えば、イベント特集で「イベント初心者向け」だとか、そういった特集を組んでいくことによって、イベント参加へのハードルを下げるのが大切ではないかと思いました。

○森田座長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。はい、鷺見構成員、どうぞ。

○鷺見構成員

広報紙はいつも拝見しておりますが、たまたま何人かの声を聞いたので、ここでお話させていただこうと思います。最近すごく見やすくなっているかと思います。8月は特にお子さんが夏休みだったので、夏休みの特集があって、それぞれに二次元コードがついて、それぞれの情報を見られるようにすごく工夫されている紙面になっているなと思いました。ただ、そういった二次元コードで調べることができる方はどんどん調べていけるのですが、調べることができない方にとってはどうしようもないなというご意見があったりします。以前はもっと写真があり、「こういう内容ですよ」ということがぱっと見たら分かるような感じでした。「今は二次元コードしかないよね」といったご意見もありました。

○森田座長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。はい、巽構成員、どうぞ。

○巽構成員

事前意見シートで、行政は発信、住民は受信と分けずに、住民を巻き込んで SNS で発信してもらう仕組みを作ってはどうかということを提案しました。特に、イベントの時にはすごく効果があるかなと思っています。イベントの案内だけではなく、イベント当日の報告として、例えば、このパネルの前で写真を撮って発信してくださいとか。その時にハッシュタグを共通にして、それを必ずつけて発信してもらうというような工夫をしてはどうでしょうか。

そのイベント自体は実施後の報告的な意味合いの発信にはなりますが、次の年にまた同じようなイベントを開催する時に、ここの自治会だったらこういう祭りをやっているとか、こういったイベントがあるのだということがハッシュタグに引っ掛かってくると次の年のイメージがわくので、即時性はないかもしれませんが、そういう積み重ねも大事なかなと思います。

○森田座長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。はい、太田構成員、どうぞ。

○太田構成員

ふと今思い出したのですが、コロナ前に区役所でハロウィンイベントをされていたかと思います。私もブース

を出店していましたが、今まで区役所と言えはすごく堅いイメージで、用事がある時以外には行くこともないし、行ってはならない場所というか敷居の高さがすごくあったのですが、イベントの時には私の周りの子育て世代の方や、高齢者の方もすごくたくさん来ていました。ハロウィンイベントの時に色々な地域のお知らせや、子育てサークルの案内などの情報を紙媒体でお渡しした時に、受け取った方のリアクションがすごく良かったというのを思い出しました。コロナをきっかけにイベントはなくなってしまったと思いますが、そのような形で、やはり相手の方の顔を見て直接手渡しで情報を届けることが大切だなと思いました。言葉を添えて情報を伝えるというのは、どの世代の方にもやはり有効なのかなというのをすごく感じます。そういったイベントのように、人が集う取組というのもまた視野に入れていただけたら嬉しいなと感じました。

○森田座長

ありがとうございます。続いて、伊藤構成員いかがでしょうか。

○伊藤構成員

過去に自分が住んでいたマンションは自動的に自治会に加入するようになっていましたが、その自治会ですでに SNS 化されていました。例えば、だんじりの宮入とかそういった情報が分かるように、まずは自治会の公式 LINE に入って、その情報を入手するというような流れになっていました。ほかの地域もそんな感じになっているのかちょっと知りたいなと思ったのですが、いかがでしょうか。

○森田座長

その件はどなたに聞いたらいいでしょうか、金澤構成員、いかがでしょうか。

○金澤構成員

自治会単位であれば、自治会に入っておられる方を LINE でつなぐことができると思うのですが、そういう取組は各自治会で行っておられますので現状ちょっと把握はしていません。東深井校区では会長さんには LINE で情報共有していますが、個別の会員さんとは LINE ではつながっていません。

○伊藤構成員

ありがとうございます。LINE 友達というわけではないですけど、LINE をきっかけにつながりがあるということで一方的な発信だけかもしれないですが、情報を入手する場所、つながる場所があるということはすごく重要なのかなと思います。区役所でそういった取組は難しいかもしれませんが、自治会のような団体であれば、もし普及されていって各自治会が SNS でつながりができるのであれば、LINE を活用して会員を増やしていくこともできるのではないかとすごく思っています。

○森田座長

はい、ありがとうございます。そろそろ終盤に入ってきましたので、その他の項目も含めて、まだ発言されていない方はいかがでしょうか。今村構成員、いかがでしょうか。

○**今村構成員**

イベント情報のことですが、先ほどの意見でもあったかと思いますが、情報を届ける際に小学校や中学校に対して協力を求めて、子どもたちには各学校からチラシを配付してもらおう取組というのは1回やってみたら良いのかなと思います。そういう協力を求めたら、小中学校は多分嫌とは言わないと思います。

あと、区役所のスピーカー付きの車で中区区民フェスタなど音声を流しながら巡回することで、興味がない人にもとりあえず「何やろ」という感じで振り向いてくれると思いますし、人集めになるかなと思います。

○**森田座長**

ありがとうございます。その他まだ発言されていない方はいかがでしょうか。はい、谷村構成員、どうぞ。

○**谷村構成員**

私はその他の項目で、公式 LINE や区長 X といったツール自体をもう少し広報しても良いのではないかと思います。例えば、区役所に手続きに来られた方々に、待ち時間を使って SNS に登録してもらえるように二次元コードを渡すとか、順番待ちの番号を取るときにその横に登録してもらえるようなものを置いておくと、より広まっていくのかなと思います。

学生部会からの意見もあったように、区長 X がちょっと硬い印象を持っているところもありましたので、フォロワー数も増えてくればもう少し親近感のわく情報発信にもつながるのかなと思いました。

○**森田座長**

ありがとうございます。それでは、金澤構成員どうぞ。

○**金澤構成員**

中区区民アンケートの回答結果で、自治会の回覧板や掲示板を見ている人が56%と出ていますが、その数値自体は非常に多いと思うのですが、自治会の加入率からするとちょっと少ないのかなという風に思います。我々は地域としても加入率を上げるために、回覧板を回したり、色々な形で加入者を増やそうとしています。答えがなかなか見つからないと思うのですが、回覧板での周知も続けていくことで、自治会加入の促進につなげていくことが必要かなと思います。

○**森田座長**

ありがとうございます。それでは、西條構成員どうぞ。

○**西條構成員**

イベント情報でちょっとお話ししたいのですが、私自身もイベント情報をあまり入手できていないなと思っているところもありまして、実際のイベントの雰囲気分かる写真が多くあったりとか、例年の参加者数だったりとか、規模感が分かるような情報があると良いなと思います。イベント規模として、大きい方が参加しやすい人や、小規模の方が参加しやすいという人もいらっしゃると思いますので、自分に合った規模感のイベントに参加するためには、そういった情報発信も大事かなと思っています。

後は、先ほどもお話があったかと思いますが、学校と連携してこどもたちへチラシを配付する情報発信については、私もすごく賛成です。友達が周りにいる状況でイベント情報を発信すると、その場でこれおもしろそうだから行ってみようという感じで参加してくれるこどもたちも多いと思いますので、それもすごく良いなと思いました。

○森田座長

ありがとうございます。たしかに新しく参加する人の立場から考えると、どんな感じのイベントかというのを分からずに参加するのはなかなか勇気のいることかなと思います。例えば、昨年とか過去にやったことがあるのであれば前回の様子を SNS やホームページなどで掲載して参加のハードルを下げてあげると少し参加しやすくなるかなと思います。

自治会についても、少し誤解している方もいるかもしれませんので、そういう誤解を解いてあげるような、ちょっと自治会加入へのハードルを下げるようなことを考えて情報発信していくと、もしかすると参加や加入が増えるのかもしれない。

それでは、ほかはいかがでしょうか。

○今西構成員

先ほど伊藤構成員が自治会で情報共有に LINE を使っているとおっしゃっていましたが、今、私の社会福祉法人稲穂会ではさくら連絡網というのを防災の連絡に使っています。地震があった時とかに「大丈夫ですか？」という発信を管理者側が流すと、「大丈夫だったよ」というのを利用者さんが画面を押すだけで入力でき、管理者側がその発信内容を開いたか開いていないかが確認できる、そんなシステムがありましたので、自治会とか中区全体で使えたら良いなと思いました。

○森田座長

ありがとうございます。それでは、まだご発言されていない方で、松居構成員、いかがでしょうか。

○松居構成員

資料 2 の中区区民アンケート結果を見て率直に思ったことですが、広報さかい中区版（中区広報みどり）について 8 割以上の方がここから情報を入手していて、自治会等の回覧板や掲示板についても 5 割以上の方がここから情報を入手していて、そういう状況を見ると、結構良い感じなのかなという風に思いました。区役所から情報発信して住民の方に知らせると思うのですが、これだけ多くの方が頼りにしているのであれば、すごく良い感じじゃないのかなと率直に思ったところです。

その中でも資料 2 の 14 ページの部分で注目したところがありまして、広報さかい中区版（中区広報みどり）の 10 歳代、20 歳代の割合が落ちていて、自治会等の回覧板や掲示板も 10 歳代から 30 歳代ぐらいがごそと割合が落ちているところは印象的だなと感じました。

私の思いですが、これぐらいの年代は、まちの生活者としての意識はどちらかと言えば薄い世代なのかなと思いますので、無理もないかなとは感じます。情報受信の話になりますが、若い世代の人たちに主体的に情報を取りに来てもらうのはあまり期待できないかなという風にも感じました。だからこそ、若い人向けに

重点的に何かするのも大事なかなと思ったのがまず一つです。

区長 X では 20 歳代の割合が高くなっていますし、SNS では X とかInstagramのようにアプリを開いたらどんどん情報が流れており、元々見ようと思っていたわけではないけれど、結果的に見ていたということが結構あります。SNS をフォローすると結構そういう現象があったりして、具体的にわざわざ調べて検索してというよりも、何かのついでに見てもらおうという方法もあるのかなと思いました。普及しているというところと言うと、X よりはInstagramの方が皆様見るのかなという風に思いまして、情報を流すにしても使い分けて発信するともしかすると煩わしさもあるかと思いますので、悩んだら一旦全部Instagramでどんどん流して、若い人にも何か気づいてもらえるような情報発信もしていけたらどうかと思いました。

○森田座長

ありがとうございます。それでは、だいが時間も迫ってきましたので、最後何かこれだけはお話言いたい方はいらっしゃいますか。皆様よろしいでしょうか。

今、松居構成員から意見がありましたが、一つの媒体ですべての情報を発信していくという考え方もそれが悪いとも思わないのですが、皆様からのご意見をお聞きしていると、先ほど異構成員がハッシュタグの話をされていたと思いますが、やはり情報発信においてはタグをつけて、きちんと分類して、その分類したものを適切なメディアで流すという考え方をした方が良いと思います。

ただ、別にこれについては答えがありませんので、どちらが良いとか悪いとかの話ではないと思います。心配なのは、メルマガもそうですがあまり関心のない情報というのはほぼスルーされますので、登録者でも結局関心のないものが多くあるとほぼスルーしてしまって、関心のある情報が本当は流れているかもしれないけれど、見過ごしてしまうことになりかねないことが心配です。

特に、防災の情報についてそういうことが起こっては困るかと思います。そういう意味では、防災の情報とイベントの情報とかで、やはりそこは使い分ける必要があるのではないかと個人的には思います。タグを付けるということをまず行って、タグをきちんと付けた上で発信していくことを検討していただき、どうやってそれを適切なメディアで発信していくかを考えた方が良いと思います。

一つのメディアで情報を流した方が良いという意見もありますので、どちらが適切なかは分かりませんが、ある程度はタグで分類した上で発信していくのが良いのかなと考えます。今、ご意見聞いていた中で言いますと、やはり若い方たちからは SNS が良いという意見がありましたが、それは別に否定するものではないですが、それが違う世代の方になるとやはり紙媒体の方が良いというご意見もあって、それもどちらが正しいとか間違っているという話ではないと思います。

ただ、だからといって全部の情報を電子でも紙媒体でも両方に出せて言うのも、これもまた違うと思いますので、その辺りはやはり適切な媒体で発信を行うことが必要だと思います。例えば、紙媒体で配付するにしても、単純に自治会に配付するということはベースとして良いと思うのですが、普段情報が届かない人にも届くようにするなど、工夫をしていきながら、より良い方法を検討いただいたら良いのかなと思います。

それでは、大体時間になりましたので、このぐらいにしたいと思います。

本日は構成員の皆様から活発なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。事務局におかれましては、構成員の皆様からいただいた様々なご意見を今後の区政運営に活かしていただければと思います。

これで本日の議案はすべて終了しました。本日の議案、あるいはそれ以外にも何かご意見、ご質問はありますでしょうか。

議案内容に対する意見や何かご不明な点がございましたら、遠慮なく事務局へ申し出ていただければと思います。それでは司会にお返しします。

4 閉会

○司会

皆様、活発なご意見の交換、ご提案をいただき、誠にありがとうございました。閉会に当たりまして、中
区長よりご挨拶を申し上げます。

○中区长

本日は長時間にわたり多くのご意見をいただき、誠にありがとうございました。いただきました貴重なご
意見につきましては、今後の取組に活かしていきたいと思います。中区政策会議の運営につきまして、引き
続きご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。改めまして、本日は誠にありがとうございました。

○司会

それでは以上をもちまして、令和 8 年度第 1 回堺市中区政策会議を閉会いたします。構成員の皆様
におかれましては、会議の開催に当たり、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。